

会 議 記 録

会 議 名 称	第1回社会教育委員の会議
日 時	平成28年5月19日(木) 午後3時31分～午後5時46分
場 所	東棟6階 教育委員会室
出 席 者	委員／吉井、藤川、天野、朝枝、小出、岩崎、多田、内山、笹井区側／生涯学習スポーツ担当部長、生涯学習推進課長、中央図書館次長、社会教育センター所長、社会教育推進担当係長(社会教育主事)、教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事)、社会教育センター主査
配 付 資 料	<ol style="list-style-type: none"> 1 第5回社会教育委員の会議 会議録(案) 2 教育委員会の主要課題について 3 杉並区社会教育委員の会議の検討課題について 4 平成27年度 教育に関する事務の管理及び執行状況の点検及び 評価(平成26年度分) 報告書―抜粋― 5 国指定史跡荻外荘(近衛文麿旧邸) ファイル 6 すぎなみ大人塾2015記録集 7 すぎなみ大人塾(リーフレット) 8 すぎなみ大人塾(募集案内) 9 はじめの一步まつり(チラシ) 10 杉並区教育ビジョン2012 11 杉並区人口ビジョン (杉並区まち・ひと・しごと創生総合戦略 資料) 12 今後の教育環境の変化に対応した地域教育の推進方策について ―地域教育プラットフォーム構想の新たな展開― 建議 ○教育委員会委員・管理職等一覧・教育委員会係長級職員一覧
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> I 報告事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 会議録の確認について 2. 「荻外荘」と近衛文麿について 3. すぎなみ大人塾について II 協議事項 <ol style="list-style-type: none"> 1. 平成28年度 of 取組について <ol style="list-style-type: none"> (1) 教育委員会事務局の主要課題について 2. 生涯学習・社会教育の推進について <ol style="list-style-type: none"> (1) 社会教育委員の会議 検討課題について (2) 検討課題に関する意見交換 III その他 次回日程について

(意見要旨)

- 議 長 先生方が遅れるとのことなので、はじめさせていただきたい。
(生涯学習スポーツ担当部長 あいさつ)
- 議 長 自己紹介かたがたご挨拶をいただければと思う。
(各関係者自己紹介)
- 議 長 会議次第に移りたい。報告事項、会議録の確認について。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 議 長 ありがとうございます。では「荻外荘」と近衛文麿について。
(生涯学習推進課長 説明)
- 議 長 ありがとうございます。限定公開後はどうなるか。
- 生涯学習推進課長 抽選漏れでご覧になれなかった方が多く、今年度中に何回か限定公開を予定している。今後は、豊島区へ移築された部分を戻し完全復元を目指している。
- 委 員 買い戻しは順調に、進んでいるのか。
- 生涯学習推進課長 まちづくり推進課で交渉を進めている。35年に豊島区に移築されて使われているが非常に状態は良い。重要な会談が行われた部分でもあるので、その意味でも杉並に戻ることに価値があると思う。
- 議 長 ありがとうございます。では、よろしいか。
(なし)
- 議 長 それでは、すぎなみ大人塾について。
(教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事) 説明)
- 議 長 ありがとうございます。質問はありますか。
(なし)
- 議 長 それでは、協議事項に移りたい。平成28年度の取組として、教育委員会事務局の主要課題を生涯学習推進課長からご説明いただければと思う。
- 生涯学習推進課長 生涯学習推進課は、課題を三つ挙げる。一つは、昨年度も調査・研究をやって、皆様にご意見をいただいた次世代型科学教育事業の拡充。昨年度に引き続き、理科の出前授業や区内イベント等とタイアップした移動式プラネタリウムの投影会。サイエンスフェスタが非常に好評で、今後の課題も挙がり、改善しながら取組む。ロボット教室等の要望も高く、初級を受けられた方の中級編として拡充していく。身近な場所で科学教育関連の企業・団体等が連携し、常に最先端の科学を世代を超えて提供できるのが次世代型の科学教育事業と考えており、一層進めていきたい。
- もう一つは、その拠点づくりの関係。昨年度、取りまとめに当たっていただいたご意見等を土台にし、サイエンスフェスタなどに集まっていた科学教育団体の意見も参考に、検討を進め、本年度予定されている実行計画の改定への反映を考えている。
- それから、今後の生涯学習事業の展開に向けた検討の実施。次世代型科学教育事業の関係で、科学教育事業だけではなく、生涯学習事業についても、身近な地域施設等を活用した展開が可能ではないか考えている。どういう体制で臨めばいいのかも含め、検討を進めさせていただきたい。それから、荻外荘に関する特別展等の実施。史跡指定のために、わかりやすく説明できるダイジェスト版のような冊子を年度末に作成したい。

- 議長 ありがとうございます。ご質問があればどうぞ。
- 委員 区内にある文化資財は、将来どうなるのか。何か構想はあるのか。
- 生涯学習推進課長 荻窪駅を中心とした地域には、登録建造物に指定されているものもある。国の史跡となった荻外荘と各施設が連携し、回遊しながらまち歩きができるなど検討を進めている。まちづくり推進課が中心となり、文化資財となりうる価値については、生涯学習推進課で後押しして所有者の承諾も得ながら登録し、指定をかけていければ残せる。しかし所有者の方のご同意が得られないことも多く、相続等が発生する前までは、ご同意が得られないなど事情もあることからハードルが高い部分もある。
- 議長 よろしいか。では、中央図書館についてお願いしたい。
- 中央図書館次長 区立図書館再編整備の取組推進を、主要課題の1番として挙げている。区政50周年を記念して建設された築34年目となる中央図書館の改修と永福図書館など古い図書館の改築。改築・複合化に向けた検討を今年度も引き続き進め、本年度改定を予定している杉並区立施設再編整備計画（第一期）の第一次実施プランへの反映を図っていきたい。貸し出しや返却、冊数を増やし、多くの方に来館していただくというだけでなく、空間、場所としての居心地のよさ、他区や他市立の図書館などを見て、集う機能が重視されているように思う。そういう時代に合わせていくために、改修を目指している。若い世代や皆様からもご意見をいただき、基本計画の策定に向けて進めていく。
- 2番目が、図書館における電子情報サービスの充実。図書館の電子情報サービスへの対応方針を作った。主に視覚障害がある方向けの録音図書DAISY資料の充実や貴重な資料をデジタル化し、インターネット上で共有利用できる仕組みのデジタルアーカイブ化を着実に進め、図書館サービスの向上を図っていく。
- 3番目が、蔵書規模の適正化の推進。「資料の除籍、廃棄及び保存に関する基準」を策定したので、各図書館で除籍をし、平成32年度末までに34万冊減を目標とする。
- 4番目が、子ども読書活動推進計画。成果指標の達成に向け、新たな取組項目をはじめとする計画事業を着実に推進してまいりたい。家庭や地域、学校、図書館などで、子どもの読書環境を整備し、子どもたちの読書習慣の育成を図りたい。1カ月に1冊も本を読まない児童・生徒の率を0%とした最終的な目標としている。
- 議長 ありがとうございます。お聞きしたいことがあればどうぞ。
- 委員 除籍に関して。蔵書の除籍だけではなくて、選書の基準も明らかにしていかないと副本だけが増える傾向にあるのではないか。
- 中央図書館次長 選書の基準は、内部基準に基づいて行っている。除籍の基準として共通の見解があったもののきちんとした基準でなかった。
- 議長 本当に除籍なのか電子化して保存するのか。
- 中央図書館次長 この基準は、アーカイブ化の対象ではなく廃棄である。
- 笹井議長 なるほど。ではアーカイブ化の基準が別途あるということか。
- 中央図書館次長 デジタルアーカイブ化を進めることは、今年度、郷土博物館などの所管と相談しながら進めるので、具体的な基準はまだない。著作権等の課題もあるが、将来的には考えていかなければならないと思っている。
- 委員 古いものに関しては、廃棄だけではなく検討して残せると良い。

- 議長 前向きに取り組んでいただければと思う。何か他にはあれば。
(なし)
- 議長 わかりました。では、スポーツ振興課部分の説明をお願いしたい。
(生涯学習スポーツ担当部長 説明)
- 議長 ありがとうございます。協議事項の2番目の生涯学習・社会教育の推進について、生涯学習推進課長をお願いしたい。
- 生涯学習推進課長 次世代型科学教育の拠点や次世代型科学教育授業をどうしていくのかについてのご意見をいただけてきた。生涯学習部門は社会教育センター、学校教育部門は済美教育センターを当面の拠点とし、身近な場所で世代を超え、最先端の科学を提供するというコンセプトで、出前型・ネットワーク型の事業展開を進めてきた。詳細については、社会教育主事からご説明をさせていただく。
(社会教育推進担当係長(社会教育主事) 説明)
- 委員 2015年のすぎなみ大人塾の다가しや楽校では、杉七小学校や特養施設をお借りし出かけていくことになり、場所も対象者も変わり新しいやり方だと感じている。
- 議長 ありがとうございます。ほかにいかがでしょうか。
- 副議長 杉並区は教育意識が高い区なので、日本のモデルになっていると知っている。それをさらに高くするにはどういうことが重要か。社会の大きな動きや方向性、国の教育のあり方などもふまえていくことで良くなるだろう。
- 議長 福祉、産業振興、補助金にしても、主体としては行政や附属の機関が何らかのサービスがあつての指標化だが、「学ぶ」や「地域をつくる」というのはプロセス概念である。「学んでいる」ことは評価しづらく、「地域をつくる」とは、どこまでいけば一定の成果なのかを定めることが難しく、指標化は困難である。例えば、人的・財政的な投資をしてすぎなみ大人塾の事業を実施し、目的は参加者がどういう成果を得たのかになる。その人がどう変わったのかを記述することが大事で、地域に関心がなかった人が社会参加をして意識や行動が前向きになったなど、成果を書き表すことだと思う。
- 委員 学んだ成果をもとにして就労支援活動を始めたら、そこに参加の働いていなかった人が仕事をするようになったなど、それをポイントに換算した個人的な評価を取り入れてみたいと思う。
- 議長 すぎなみ地域大学とすぎなみ大人塾とはどこが違うか。すぎなみ地域大学は、ミッションを自分で持っていて学びたいという人が集まると思うがすぎなみ大人塾は、地域と接点を持たない人が社会参加し、活動していくことを押し出すのが役目。社会と接点を持たせて実践に結びつけるというのは、杉並区という大都市が抱えている社会教育の一番の課題だと思う。
- 副議長 先程の図書館機能の話も、集まることで社会や他社と接点を持つことが大事になっているので、そこを押し出すのが社会教育行政だと思う。
- 教育連携担当係長(社会教育センター社会教育主事) 出前型やネットワーク型の生涯学習をどう展開していくか。社会教育が充実することによって、社会福祉が財政的な負担を軽減したり、必要な人への福祉サービスが集中的に行われたりすることで質を高められる。厚生労働省の地域包括ケアの仕組みをつくった当時の事務次官が生涯学習の重要性を発信しているが、例えばこのような関係をどう考えていくべきか。議論していただき事業評価にも生かせる形にできれば、社会教育という見えにくい領域の現場で進めている職

員の自信につながる意味でありがたいと思う。

すぎなみ大人塾を卒塾者には、大人塾連があり、その世話人会のようなものもある。ここに入って来る人が仲介役となり、身近な場所や商店街、あるいはコミュニティカフェなどを拠点にしながら、いろいろな活動をされていることもある。これを社会教育全体の施策として位置づけ、仕組みとして見せていきたいと思うが、今回、ご検討いただきたいテーマと重なっているので、ぜひ活発にご議論いただきたい。

- 委員 科学館がなくなる中で、新しい考え方や出前型ネットワーク、バーチャルも利用するという流れであったらと思う。サイエンスフェスタに参加し、区に関係団体が豊かに存在し勉強になると思われた親子も多かったと思う。初めて知り合った団体同士が「おもしろいね。今度こういうことをやらない？」と自分たちで行うようにするよう、いろいろなことで相談できたり、行政や専門職ともつながれたりして、民間の力が活性化される場面の充実が欲しいと思った。
- 委員 高齢者の方々に対しての学びのことだが、地域包括ケアは、ほとんどが自宅でのケアに向かっており、看護師も保健師機能を求められるなどお聞きしている。地域では、高齢者・障害者の見守りということが主になってくると思う。福祉に頼らないで済むというのは、国としても掲げておりなるべく要介護状態にならないようにというのが、全ての自治体の課題でもあると思え、そこを生涯学習に求められているのだと思う。そこをどう支えていくかということを考えていきたい。
- 委員 どう、人材を育成するのだが、人を生かすことのみならず、全てを生かすことを考えてつなげていくことをやっていけばいい。
- 議長 ありがとうございます。では、議論はこの辺にしたいと思う。次回について。
- 社会教育推進担当係長（社会教育主事） はい。ありがとうございます。次回は6月21日3時半から5時半でお願いしたい。
- 議長 よろしくお願ひしたい。では、最後に課長からご挨拶をいただければ。
- 生涯学習推進課長 本日も貴重な意見をいただき、誠にありがとうございます。今年度は生涯学習全体の進め方について、またご意見をいただきたいと思っている。それが杉並モデルという、新たな生涯学習・社会教育の進め方になっていくということで今後ともよろしくお願ひいたしたい。本日は、ありがとうございます。
- 議長 どうもありがとうございました。お疲れさまでした。